

てん一新聞

09.6. No145
発行 市岡日出夫
巻責 0883-88-5292

剣山と五月一日に山開き。
いよいよ、海や山の自然を楽しめる季節。
康祖谷の小中学校では毎年一回は祖
谷の山に登っています。
折の頼小中学校では、今年こそ次郎塚へ登
登ろうと計画。昨年と雨で次郎塚へ登
れず、待ちに待った二十九日。所が今年も前
日から天候が悪くなり、心配しました。
当日も曇天で少し寒い。その日、予
報ではびんとかもそう。という事で決行。
一年生を先頭にして歩きはひめる。
ガスが出て遠景はダメでしたがコミヤマ



ついに頂上だ!

折の頼小中学校

ゾウキョウ

カタバミなどの高山植物の花が咲いていた。動物のフンがあったりと興味津津。歩きはひめる。一時間近くなった頃、なんとガスが流れ、目の前に次郎塚が突然あらわれ、その雄大さに歓声が上がる。時々休んで、楽しみのオヤツを食べ、いよいよ最後の急坂を登りはひめる。一年生はちぎと「せーのいっしょいっしょ」で頂上へ。一歩一歩、呼吸をかけるのはひめる。えんじについて登っていく。そこへ頂上へ。上の景色の様子は青空が迎えてくれた。皆んなで頂上に立つことが出来ました。お父さん、お母さんと登るのには次郎塚にうなづいた。お父さん、お母さんに登らせて、これは自慢できますよ。下山時には小雨が降り出したけれど、おもしろい弁当を食べ、楽しい思い出が出来ました。下山して、一人ひとりの笑顔が十分自然を感じた。ここらで、こころが感謝の次郎塚登山でした。



合併して三好市となつて三年が経つて
ますます過疎化が早くなつていようが
すが、地域活動は地元の人が自らすすん
で自分達のネットワークを作り、それだけ
の能力とパワーで元気な所もあります。
この度、徳島新聞の社会賞を受賞した
池田町の智蔵福祉社村の地域活動はまさ
にそのモデルといえるのではないでしょ
うか。
活彩祖谷村も、同じ村として、智蔵
福祉社村に学ぶべき事が少なくないとい
おもいました。
元気印の複活動も、自らすすんで自分
が「元気です」と宣言し、複をたてる
ことで安心と絆を意識すること、地
域活動の中心が出来るとおもいます。
今治の山本さんは、日本各地の山
へ登つた時に海外へも出かけ
その時、元気印の複をかかげて
写真を送り送る下さいます。住
んでいる場所は違つても元気な村民
の証しか
居ると
うれし
い限り
です。

ここにも 元気印の旗